

福祉科 「3年介護総合演習」 学習指導案

千葉県立松戸向陽高等学校

1 日 時 平成26年1月17日(金)・4限(11:50~12:40)

2 場 所 3年7組教室

3 授業実施者

4 対象学級 福祉教養科3年7組

5 学級観

6 教 材 第21～23回 介護福祉士国家試験問題
テキスト「介護総合演習」(メヂカルフレンド社)

7 単元名 事例問題演習

8 単元設定理由及び単元目標

この科目(介護総合演習・2単位)は、カリキュラムの都合上、「介護過程(4単位)」と抱き合わせで実施しており、10月の介護実習の事前事後指導及び介護実習報告会の準備等に使われ、あとは介護実習で学んだ知識等を活かして、介護総合演習の内容である事例研究や調査・研究を行うことを計画している。

単元目標としては、

- ・介護福祉士国家試験問題における事例問題(総合問題)を解くことで、国家試験に合格するための実力を養う。
- ・取り上げられた事例を検討することで、事例にかかわるサービス利用者の心理や生活状態、事例への対応方法を分析し、必要とされる介護方法や社会資源等について考えさせ、グループ及びクラスで検討し合い、介護従事者としての意識付けを図る。

9 単元指導計画

(1) 事例問題演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間

2時間目(本時)

10 本時の指導

(1) 題材：事例問題演習

(2) 目標：取り上げられた事例を検討することで、事例にかかわるサービス利用者の心理や生活状態、事例への対応方法を分析し、必要とされる介護方法や社会資源等について考えさせ、グループ及びクラスで検討し合い、介護従事者としての意識付けを図る。

(3) 本時の学習指導過程 (50分)

段階・時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 出欠確認 本時の学習内容, 学習目標の説明 	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間と授業の気持ちの切り替えをする。 本時の学習内容 (個人及びグループ学習) を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 休憩と授業の切り替えが不十分ならやり直させる。 グループで事例を検討し合うことの意義を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を受ける準備と態度ができているか。 (関心・意欲・態度)
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> 事例問題演習 事例問題検討 	<ul style="list-style-type: none"> 最初に個人で事例における対応方法等について考察する。 6人程度のグループに別れ, 記録係, 発表係を決め, メンバーそれぞれの対応方法について発表・検討し合い, その検討内容を記録係が別紙に記録する。 グループごとに検討した対応方法を発表係が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 最初に自分の力で事例問題に取り組み, 求められる介護の内容や対応方法等について考えさせる。 グループのメンバー全員が事例問題の検討に参加しているかを机間巡回しながら確認, 指導する。 他のグループの発表内容を確認, 比較, 検討することで, 求められる介護の内容や対応方法の妥当性について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討に対して, その方法と意義を理解し, 積極的に取り組もうとしている。 (知識・理解) (関心・意欲・態度) 他者の発言を聴き取ろうという姿勢が見られる。 (関心・意欲・態度) 自分の対応方法についての的確に表現・説明している。 (思考・判断・表現) (技能) 自分と他者の対応方法を比較・検討し, よりよい支援とは何かを考えている。 (関心・意欲・態度) (思考・判断・表現) (知識・理解)
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者にとってよりよい介護とは何かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護内容や対応方法について複数で検討し合うことで, より適切な支援につながることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討の意義・重要性について理解している。 (知識・理解) (思考・判断・表現)

3年介護総合演習事例問題

1 次の事例を読んで、下の問いに答えよ。

事例（第21回）

介護老人保健施設の入居者Gさん（78歳，女性）が早朝から下痢と嘔吐を繰り返し、前中に病院を受診し、その結果、ノロウイルス感染の疑いがあることが判明した。入居者は50名，1ユニット10名が個室で生活し，GさんはユニットQに所属している。それぞれのユニットには共有の居間兼食堂，家庭用浴槽がある。静養室は医務室の隣である。ご飯，味噌汁はユニットごとに準備し，副食は厨房で調理している。また，同日の午前中には，それぞれのユニットから希望者が集まり，ホールで書道サークルが実施されていた。

問題1

Gさんの診断結果を受け，入居者の健康状態の確認が行われることとなった。その際，確認すべき項目はどのようなものが考えられるか。

問題2

感染の拡大防止の対処方法としてどのようなことが考えられるか。

問題3

翌日，ユニットQの入居者3名が発症したので，緊急に施設全体の家族説明会を実施した。その際，どのような説明がなされるべきか。

2 次の事例を読んで、下の問いに答えよ。

事例（第21回）

Yさん（68歳，女性，要介護3）は，長年関節リウマチを患い，長期間ステロイドを内服しながら単身生活を続けてきた。3年前より認知症症状が出現し，在宅での生活が困難になり，半年前にグループホームに入居した。最近，自室が分からずうろうろしたり，行ったことをすぐ忘れることが多くなった。歩行時は，下肢筋力の低下によるふらつきが目立つようになった。食事は自分でとれるが水分の摂取が少ないので，頻繁に水分をとるよう声をかけている。排泄は，昼間はトイレに行くことを誘導しているが，夜間は失禁があるため，パンツ式の紙おむつを使用している。皮膚のかゆみがあるので，入浴時に保湿剤を塗っている。

問題1

Yさんのアセスメントすべき項目として，どのようなことが考えられるか。

問題2

Yさんの介護計画（支援内容）として，どのようなことが考えられるか。

問題3

Yさんの入浴介助として，どのようなことが考えられるか。